

佐原の町並み かわら版

第65号
令和2年2月
発行 NPO法人小野川と佐原の町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
電話 0478(52)1000

令和元年度千葉県教育功労者表彰

加瀬順一郎、久保木秀夫、並木久雄の三氏

「伝統的町並み保護に寄与したとして」

令和元年十一月一日(金)に千葉市ホテルポートプラザちば二階のロイヤルの間で、第七十回千葉県教育功労者表彰式が行われた。

加瀬 順一郎氏

所有者である三名が表彰された。(授賞内容は香取市広報より引用)

教育・文化の発展に寄与した個人部門九三名、団体部門二二団体が功績を称えられ受賞した。個人の部の芸術・文化の部で、芸術文化の普及振興、文化財の保護研究、地域文化の振興に寄与したとして、香取市の町並み保存に貢献した「千葉県指定有形文化財



左より加瀬ご夫妻、久保木氏



正上醤油店の堂々の中蔵と「だし」

江戸時代に食用油商として創業し、江戸末期からは醤油製造業を営む「正上醤油店」の主人。「正上醤油店」は天保三年建築の店舗と明治時代前期建築の土蔵から成り、小野川岸には荷上場である「だし」が残る。伝統的町並みを構成する

久保木 秀夫氏

重要な建造物であることから、平成四年二月二十八日に千葉県有形文化財(建造物)に指定され、その後二十七年以上の長きにわたって建築当初の姿の保存と伝統的な町並みの保護に寄与した功績は大である。



完全修復した土蔵が輝く旧油惣商店

江戸時代中期頃に現在地に移り住んで酒造業や奈良漬の製造を行なった「旧油惣商店」の主人。「旧油惣商店」は、明治三三年建築の店舗と寛政十年建築の土蔵から成り、土蔵は佐原の町に現存する最古の土蔵である。伝統的町並みを構成

並木 久雄氏

江戸時代に創業した乾物商「中村屋乾物店」の主人。「中村屋乾物店」は、佐原の大火で焼失し、明治二五年に建てられた店舗と、明治十八年に建てられて、大火後の明治二五年に木造の三階部分が増築された文庫蔵から成る。伝統的町並みを構成する重要な建造物であることから、平成四年二月二十八日に千葉県有形文化財(建造物)に指定され、その後二十六年以上の長きにわたって建築当初の姿の保存と伝統的な町並みの保護に寄与した功績は大である。



粋な看板の架かる重厚な中村乾物店

※町並み保存を長きにわたり実行していくことは並大抵ではありませんが、この表彰を契機にして町の活況がさらに続くことが期待されます。(広報班)

簡易消火栓放水訓練

令和元年九月二二日(日)午前九時三十分より、共栄橋際で、二年前の横宿の火災を経験した近隣住民が多数参加し簡易消火栓の放水訓練が行われた。



まずはホースを引き出すことから

小野川清掃に高校生が参加

令和元年十月五日(日)午前九時より佐原の大祭を前に小野川清掃が樋橋、開運橋の間で行われ、佐原、佐原白楊、千葉萌陽高校生多数が参加した。



高校生の積極的な手早い作業に驚愕

佐倉"江戸"時代まつりで 伊能忠敬の歩測体験を実施

令和元年十一月十七日(日)に佐倉市新町通りで開催された二十一回目の「佐倉」江戸時代まつりに「小野川と佐原の町並みを考える会」のメンバーが多数参加して、国の登録有形文化財に答申された「旧今井家住宅」を中心に、近隣住宅の協力を得て「伊能忠敬の歩測体験」を行いました。

六か所に梵天



ピタゴラ・スイッチは成功したが

「さわらぼ」が上川岸小公園で 「さわらぼスイッチ」完成披露

「さわらぼ」(佐原高校の生徒による自主活動)による「さわらぼスイッチ」完成発表会が、令和二

年一月二十六日(日)に、拠点である「上川岸小公園」を会場にして行われた。生徒たちの積極的な呼び込みが功を奏し、集まった多くの観客がその成果を見守った。

平成二五年十二月に東京大学大学院のプロジェクトチームが佐原高校生徒会に働きかけて「佐原高校まちづくりプロジェクト」(以後は「さわらぼ」となる)が発足した。当初は香取市から空き家となった古民家を借りて活動していたが、その後は活動場所を変えながら、現在は拠点を「上川岸小公園」に置いている。

※佐原の町の担い手育成支援事業

最近、佐原高校以外の学校や小・中学生や大人との結びつきも強くなり、年二回の小野川清掃にも積極的に参加している。

年一月二六日(日)に、拠点である「上川岸小公園」を会場にして行われた。生徒たちの積極的な呼び込みが功を奏し、集まった多くの観客がその成果を見守った。

川越で第42回全国町並みゼミ

一月三十一日、二月一日、二日に開催され、当「考える会」から五名の方が参加しました。

(渡辺さん)川越には五回位行っていますが、初めの頃は随分変わりました。金曜日にガイドさんの案内で町並みを歩きました。街道は車が一杯で渡るのが苦労しました。

(植島さん)東日本大震災の影響のなかった建造物は本当に立派。外国人観光客のマナー等の問題もあり、これからは地元住民との意思疎通をはかって町づくりをする

ことが重要だと思う。(石毛さん)オーバー・ツーリズムの問題で「土曜日は観光客が多くなるができない」ため金曜日にしたそうです。

「修理・修復を自分たちの手でやりたい」という機運があり、若い人達の修復技術者養成が始まっている様です。

また、イタリアで進められている地方再生の取り組みが紹介されました。町の一部に限定せず、歴史、食べ物、生活、住宅をトータルに売り出していくやり方で、料理や物作り体験を通して「地域再生・観光まちづくり」をしていくというものです。

三日目のオプショナル・ツアーは「行田市」でした。行田市は「日本遺産」に登録されて町づくりを

を立てて一〇メートルの距離を決めて、参加者が歩測でどれだけ正確に歩けるかに挑戦していただきました。

まずは何人位の参加者があるか不安でしたので、私たちは羽織・袴姿・かつらと刀二本差して伊能忠敬に扮

し、懸命に呼び込みをしました。奥様が「面白そうだ」とご主人を誘ったり、女子高生も大声で歩いてくれました。



伊能忠敬(植島が扮す)が佐倉藩往来を闊歩する

歩測体験参加者は一七名

正しい姿勢で、真剣に歩く

お母さんだけが正解した家族は全員が大喜び、鉛をなみなめ歩いた女子小学生は見事正解し飛び上がっていました。多くに皆さん楽しんでくれました。

(植島 裕)

NPOの主な事業

生産地。三百以上もあった製品保管倉庫が、いま八十程残る所をガイドしてもらいました。

- 第一日曜日 骨董市
- 月一回 下旬に案内班会議
- 九月三日 成田空港地域共生・共栄会議
- 九月二日 簡易型消火栓放水訓練
- 十月五日 小野川清掃
- 十月十一〜十三日 新宿祭礼(交流館入場者・計六七一名)
- 十月二日 天皇即位に伴う山車曳き廻し
- 十月二五日 成田空港地域共生・共栄会議
- 十月二六日 放送大学来館
- 十一月三日 小江戸サミット
- 十一月五、六日 香取神宮案内班研修
- 十一月七日 消火設備点検
- 十一月十四日 藤沢公民館来館
- 十一月二日 三菱館審査委員会
- 十二月六日 成田空港地域共生・共栄会議
- 十二月二日 さわらぼスイッチ生活動開始
- 一月五日 獅子舞
- 一月四日 佐原経済団体合同賀詞交歓会
- 一月二四日 コミュニティカレッジさくら来館
- 一月二六日 さわらぼスイッチ発表・佐原町屋館
- 一月三十日 第四十二回全国町並みゼミ・川越大会
- 二月八日〜三月二日 第十五回さわらぼめぐり
- 三月七日(土) 雛舟

千葉県指定文化財「三菱銀行佐原支店旧本館」

ゆかりの「清水建設千葉支店」が修復工事①

東日本大震災の被害で非公開中の三菱銀行佐原支店旧本館(前・川崎銀行佐原支店。現在は佐原三菱館という)の修復工事が、清水建設(株)千葉支店によって鋭意進行中です。

そこで、工事長である樋山裕己(ゆうき)氏に修復工事に関わるお話を伺いました。

百年を経てついに佐原へ

佐原三菱館は、当社が一〇五年前、千葉県で最初に設計施工した本格的洋風建築です。設計は辰野金吾の弟子の田邊淳吉の部下だった大友弘氏が設計長でした。最新の煉瓦壁構造で日本



令和4年の修復をめざして

まことに太い運命の糸が今に繋がっていると思っています。

文化元年、初代清水喜助創業

初代は天明三年(一七八三)越中小羽(富山市)の農家に生まれた清水喜助です。大工職修業後、宇都宮の棟梁に弟子入り。東照宮の修理工事に参加後、江戸へ出て文化元年(一八〇四)二一歳で神田鍛冶町で大工業を始め、天保九年に江戸城西丸造営に参加します。

二代目は初代と同郷の藤沢清七。初代を頼り江戸へ出て江戸城西丸造営工事に参加。鎖国が解かれた後、横浜支店を任されて洋風建築を手がけ、安政六年(一八五九)喜助の死後、二代目喜助を襲名。

渋沢栄一を相談役に迎へ

明治十四年(一八八一)に三代目となったのは、二代目喜助の娘婿に迎えられた丹後宮津藩出身の満之助でした。しかし、明治二十年(一八八七)に満之助が三四歳で急逝したので、八歳の長男喜三郎が四代目清水満之助を名乗ります。そこで幼少の四代目を気遣っていた三代目の遺言によって「渋沢栄一」に相談役就任を要請します。渋沢翁は大正五年(一九一六)に辞任するまでの三十年以上にわたり実質上の社長として経営指導をして「清水満之助商店」として会社組織を立て直しました。まさにその時期こそが、川崎銀行佐原支店の新築が始まり完成

ただのり 伊能忠誨と祖父忠敬(その6)

一 伊能忠誨の結婚と死

文政5年9月10日の忠誨日記には、彼を庇護していた伯母妙薫の葬儀を終えて江戸に戻る前夜の出来事が「半右衛門母、同孫娘等イトマ乞ニ来ル。右娘ハ内々予ニ見セルツモリ」と記されている。永沢半右衛門俊世の母(忠敬の父の出した神保本家出身)が連れてきた孫娘が忠誨の妻となるクニである。クニは石岡市高浜の笹目家の娘であるが、実は母親の実家が佐原の永沢半右衛門家であった。

文政6年3月29日、幕府天文方の忠誨のもとへ佐原から手紙が届いた。親類一同相談の上、4月26日に「御縁女引取之取極メ」をしたので、必要な物を買そろえるようにとの内容であった。すぐに白木屋で結納の品を買調えたり、唐棧の袴を仕立てたりと慌ただしくなった。

4月26日、佐原に帰った忠誨は数えて18歳、クニは15歳であった。日記には「今夜親類中ヲ呼ブ」とあり、翌朝になってやっとお開きとなった。その後も、連日、村役人に振舞い、橋本町内その外へ振舞い、手伝いや働きの者への振舞いが続いた。

文政8年春、忠誨は浅草の天文方で高橋景保の命で作っていた星図を完成させた。この間クニも江戸へ出て、深川や王子へと出かけていた。

文政9年6月6日に念願の女兒が生まれ、テイと名付けた。8日の日記には「ヲハギを親類、町内、懇意出入之者へ遣ス」とあり、26日には産屋明けでテイは牛頭天王社(現在の八坂神社)や氏神様にお参りした。忠誨は江戸へ出て7月10日に祖父忠敬の眠る源空寺に墓参している。娘の誕生を報告したのであろう。

ところが7月26日の日記に、突然「おてい大病」「おてい死去」と記される。後を追うように忠誨の体調も悪化したのであろうか、9月6日で日記は終わる。

文政10年(1827)2月21日、忠誨は数え年22歳で生涯を閉じた。(玉造 功)

に至った大正三年だったので。

町並み交流館の行事

- 七月一日(月)〜八月三十一日(土) タイ・イラストレイター特別展
- 八月五日(月)〜二日(水) 北澤聖江・佐原の大祭・「母と子と」展
- 八月二四日(土) お茶を楽しむ会 (香取市国際交流協会)
- 九月一日(日)〜十六日(月・祝) 切り絵展「樋の道」
- 九月八日(日) 軒先コンサート
- 九月十七日(火)〜二四日(火) 魚谷幸子水彩画展
- 十一月五日(火)〜十七日(日) ミニチュア・ドールハウス展
- 十一月二日(金)〜二六日(火) 秋季盆栽展
- 十二月八日(日) 席上揮毫・本宮華水氏
- 十二月十日(火)〜二七日(金) 観光写真展



本宮華水氏の席上揮毫と藤ヶ崎・北崎氏のつる工芸作品

- 十二月二十八日(土)〜二〇二〇年一月三十一日(金) けやき工房・つる工芸作品展「お正月飾り」藤ヶ崎たつ子・北崎みち子
- 二〇二〇年一月五日(日) 寿獅子舞の演舞と下座演奏

案内班の「ちょっといい話」

(語り手) 越川 悦子

～小学4年生男子の佐原再訪～

11月17日(日)、私は当番でした。10時頃、来館者に説明を終えた丁度その時、「お早ようございます」と大きな声が出て、一休さんのような男の子がご両親と妹さんと入館して来ました。「あら、よく来たね」と言うと「この間、4年生の総合学習で佐原の案内をしてもらいましたが、江戸の感じがとてもいいからお父さんとお母さんと妹にも見せたくて連れて来ました」「あら、うれしいわ。どこから来たの?」「東金です。佐原をもっと知りたい」というので地図をあげました。山車会館には行かなかったというので、他の見所を紹介しながら、「正上にはウルトラマンがいるよ」「福新にはかわいいおばあちゃんがいるよ」「川沿いの観光案内所に行くと番頭さんの格好をして写真が撮れるよ」と教えてあげると「それは面白い」と熱心に聞き耳を立てます。小学4年生というよりも立派に一家を背負っているような風格。「将来は何になるの?」「家を継ぎます」「家は何をしているの?」「農業です」ときっぱり。話が長引くので、妹さんは「わかりました!」ともうやめてよと言わんばかり。兄にあっちへ行けと追い払われてしまいます。その間、ご両親はずっとにこにこ無言のまま。やっと話が終わり「行ってらっしゃい」と別れました。東金の小学校の名前を確かめるために受付票を調べると何と13日(水)の4日前に来たばかりだったのです。

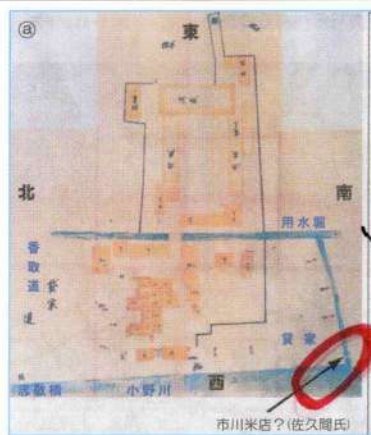
4時を過ぎて、私が帰り支度をしていると「ただ今!報告に来ました」と大声がする。行ってきた所を全て報告するのです。「いい子ですね。お名前は?」とご両親に聞くと、「宗吾です。佐倉宗吾郎の宗吾から取りました」とはっきりおっしゃいました。印象的な一家でしたね。



外国からの訪問者



「樋橋」は描かれています。ところが1780年代に作成されたと推定される「伊能家図面」や1824年の忠誨による「伊能家屋敷図」にも屋敷内を通る水路はなく「橋」も描かれていません。江戸時代前期の「樋橋」は今の場所にはなかったということになります。忠誨時代より後(1824年以降)に、現「書院」の建築と同様、今から160年ほど前頃、敷地内用水路が新たに引かれ、同時に「樋橋」は今の場所に付け替えられた



答えは「NO」。忠敬や忠誨の時代には伊能家前には「樋橋」はありませんでした。では「樋橋(ジャージャー橋)」はいつ頃今の場所に出来たのでしょうか。これまで、「樋橋」は江戸時代前期に架けられ、当時から現在の場所にあったとされてきました。古文書には「寛政十一年(1671)に樋が架けられた」とあり、1722〜45年頃の佐原村古地図や村絵図などにも

渡った先の蔵の前と小さな忠敬像の辺りに天文台がありました。本宅の背後には穀蔵があり、この穀蔵が本宅焼失後に移されて現在の店舗になったと言われています。穀蔵の背後を走る用水(三菱館横の細い道)のさらに奥の住宅面積を超えるほどの敷地に酒蔵と酒造蔵がありました。佐原小学校から磯歯科医院前を通り香取街道に抜ける所に「三郎衛門家の井戸跡のマンホール」が今でも残っています。

伊能三郎衛門家の屋敷(上図)は、現在の旧宅中央のジャリが敷かれた空間と旧記念館跡辺に本宅があり、用水を貯める堀を渡った先の蔵の前と小さな忠敬像の辺りに天文台がありました。また、1673年の記録によると、橋の長さは13間2尺(約27m)とあるので、川に直角ではなく「斜め」に架かる「樋橋」だったと考えられます。

と考えられます。(平澤節夫) 享保期(1729年前後以降)に描かれた「伊能家図面」の中央に北方より現在の佐原幼稚園裏辺から香取街道に抜ける用水路が描かれています。現在の三菱館横の細い道にあたります。この用水路は、現在の佐原小学校の通りに沿って西方に向かう途中で、小野川方向に直角に分流して行きますので、小野川に行き着く所に「樋橋」があったのでしよう。また、1673年の記録によると、橋の長さは13間2尺(約27m)とあるので、川に直角ではなく「斜め」に架かる「樋橋」だったと考えられます。

忠敬や孫の忠誨は「樋橋」を渡ったか?